

# じんけん うわしま人権だより

じんけんさくひんしゅう じんけん  
人権作品集 「いのち」 ひょうごぶもん さいゆうしゅうさくひん  
【標語部門】 最優秀作品

きみ いろ いろ あ にじ  
君の色ぼくの色 たくさん合わせて 虹にする



う わ しま し り つ み ま き し ょ う が つ こ う ね ん わ た な べ つ が さ  
宇和島市立御模小学校 5年 渡邊 司牙

しゃかい こうせい た よ う ひ と び と い ひとり か お ち が  
社会を構成するのは多様な人々であることは言うまでもありません。一人ひとりの顔が違うよう  
に性格も特性も違ってあたりまえです。その違いを受け入れてお互いの良さを理解し合うことがで  
きる社会こそ誰にとっても住みよい社会と言えるでしょう。

こ ども に と っ て は じ け い け ん が っ こ う しゃかい なか こ ども こ ろ た が じんけん みと  
子どもにとって初めて経験する「学校」という社会の中で、子どもの頃から、お互いの人権を認  
め合うという意識が育っていることに感動を覚えます。認め合うだけでなく、違う色がたくさん集  
まるからこそできる虹の素晴らしさや美しさも知っているのです。子  
どもたちの人権意識の高さに次世代への希望が膨らみます。

わたし おとな ち が り ゆ う せん ひ へんけん も  
私たち大人は、ついつい違いを理由に線を引いたり、偏見を持った  
りしていないでしょうか。多様性を尊重するという基本的な意識の大  
切さを子どもたちに教えられる気がします。

う わ しま し さ く ね ん が つ せい ど  
(宇和島市では昨年4月からパートナーシップ・ファミリーシップ制度  
を導入しました。誰もが自分自身を大切にして、自分らしく生き、互  
いを認め合える社会の実現を目指しています。)



じんけんしゅうかん がつ か か あいだ た よ う せい し ょ う ち ょ う い ろ せい べ つ ね ん れ い こ く せ き し ょ う う む せい て き し こ う  
人権週間(12月4日～10日)の間、多様性を象徴する色であり、性別、年齢、国籍、障がいの有無、性的指向、  
性自認など、人々の多様な個性や能力を尊重する重要性を示す、レインボーカラーをイメージしたライトアップを、  
宇和島城天守で実施しました。



# 第20回宇和島市人権・同和教育研究大会

テーマ「差別をなくすために、まず私たちが行動しよう」

全体会

講演

「部落問題の現在(いま)を考える」

一部落問題を教育・啓発でどう語り、伝えるのか

講師

石元 清英さん (関西大学名誉教授)

大学において多くの学生と部落問題学習を重ねてきた石元氏の講演では、学生の意識調査から知り得た同和教育の課題が語られました。明治時代に解放令が出て、155年が経つのに、同和教育学習をしているはずの若者ですら部落問題や部落そのものを正しく理解できていないのはなぜかを説かれました。



## 1 大学生がもつ部落に対するマイナスイメージや誤解

- 義務教育や高校教育で部落問題を学習しているはずの大学生にも部落に対して暗い・貧しい・閉鎖的といったマイナスイメージをもっている者が多くいる。
- 学校教育で明治以降の部落について語られないので、部落は現在でも江戸時代の身分・職業・居住地が三位一体であると誤解している。  
⇒ 差別別出身者に対する差別の事例を学習するだけでは、十分な学習にはならない。部落差別がいかに根柢のないものかというしっかりとした学習が必要。

## 2 部落とは何か

- 部落の定義は非常に曖昧である。「社会通念によって長い間いわゆる部落と見なされてきたところ、現にそう見なされているところが部落」としか言えない。  
⇒ 無知や無理解、偏見が部落差別をつくりあげている。

## 3 まとめ

- なぜ人権を学ぶのか  
⇒ 差別する側に立たないため。  
差別に加担しないため。  
差別を傍観しないため。  
誤解や偏見を批判できる力を付けるため。  
新しい人との出会いで生き方を豊かにするため。



部落問題について、一部の大学生と同じ誤解をしている人はいないでしょうか。部落史について正しく学習すれば、それ自体の根柢のなさや、差別の不当性を理解することができるはずですが、それなのに、不合理な差別や偏見によって、幸せに生きる権利を奪われている人々が未だに存在します。それを許してきた社会から差別をなくしていくことが今を生きる私たちに課されています。これまでの人権学習を見つめ直し、これからの人権学習の在り方を考えさせられる講演でした。

だいぶんかかいじんけんかくりつ きょういく そうぞう  
**第1分科会 人権確立をめざす教育の創造A**

「ともに生きる力を育てる～みんな大切な仲間～」

しゃかいふくしほうじんう わじまさいび ふじんかい  
社会福祉法人宇和島済美婦人会

まるおほいくえん ふじかわ ゆか  
丸穂保育園 藤川 由佳

えんじ  
・差異(ちがい)のある園児について

子どもたちは一人ひとり、様々な個性をもった存在である。差異(ちがい)のある友達に出会い交流し、共に生きる喜びを体験する。このことによって友達は大切な思いを乗り越え、楽しく生きているんだとリスペクトしながら、共に生きる喜びにつながっていくのではないだろうか。保育園生活の中で、様々な体験を通して得られた、充実感や達成感、物事に取り組む意欲は、子どもたちにとっても、大きな力となり自己肯定感にもつながることだと信じている。



だいぶんかかいじんけんかくりつ きょういく そうぞう  
**第2分科会 人権確立をめざす教育の創造B**

「思いやりと感謝の心を育む～周囲と関わり、

相手の気持ちを想像する活動を通して～」

うわじましりつきたなだしょうがっこう わたなべ まさふみ  
宇和島市立北灘小学校 渡部 真史

ひび じんけん どうわきょういく すこ くふう くわ  
・日々の人権・同和教育に少しの工夫を加えながら

北灘小学校の人権に対する思いを地域全体に広げていくため、公民館と連携して設置した人権標語投函ポスト、児童が主体となった人権集会の開催、積極的な道徳科研修(特に複式学級における同和問題学習)等、例年実施していた活動に、少しの工夫を加えながら、全職員が横並びで取り組んだ。

また、保小連携、お年寄りとの交流、ふるさと学習



の充実を図ることは、他者を思いやり、感謝の気持ちを育むことに確実につながった。今後も様々なアプローチから人権・同和教育の充実を図りたい。

だいぶんかかいじんけんかくりつ きょういく そうぞう  
**第3分科会 人権確立をめざす教育の創造C**

「～本校における人権・同和教育の取組～」

えひめけんりつよしだ こうとうがっこう はざま むねひと  
愛媛県立吉田高等学校 挟間 宗仁

じゅぎょう とお じんけんそんちよう いしき いくせい  
・授業を通して、人権尊重の意識を育成する

体験学習や実習等の授業が多いため、教職員、生徒、地域の人たちとの交流を深く持つことができ、お互いに教え合ったり、支え合ったりするなど、相手の気持ちを思いやりながら問題解決に臨む機会が多い。自分の価値を実感できる自尊感情の育成も教育目標としている。少人数のクラスが多いため、生徒一人ひとりに行き届いた指導ができるという利点を生かし、面談等を通して指導を行い、また様々な人権・同和教育活動等を通して、自尊感情や他者理解の育成も行っている。

年々多様な生徒が増え、人権に対する意識も様々である。生徒への指導には、教職員の人権に対する意識を一層高める必要がある。



だいぶんかかいじんけんかくりつ きょういく そうぞう  
**第4分科会 人権確立をめざすまちづくり**

「関わりをもつこと」

かいかい いなば てつや  
みみの会 稲葉 哲也

かか  
・関わりをもつこと

「目が不自由・耳が不自由・車椅子ユーザーのどれが一番辛いと思いますか」各グループへのその問いかけから始まった。圧倒的に「目が辛いと思う」という答えに、稲葉さんは「耳が聞こえないことの怖さ」を語った。その理由は「コミュニケーションがとれないこと」だと。また、高齢者、妊婦さん、外国人、杖を持っている人などいろいろな人の中で、エレベーターに乗る順番を考えるワークでは、見た目だけでは判断できないことを知ることができた。何が一番大切か。



それは相手を知ること。つまり関わること。社会の中でのあらゆる人権課題は、知ること、つながること、関わることで解決への道筋は開けると確信した。

# 各地域での人権啓発イベント

9/10 【宇和島市人権を考る市民の集い】 天神小学校



シンガーソングライター monさんの「うまれてきてくれてありがとうトーク&コンサート」では、会場が一体となって楽しむことができた。ありのままの自分を受け入れて認めてくれる存在があることの大切さを改めて実感した。

11/18 【吉田町人権をまもる集い】 吉田公民館



ドリアン助川さんに「私たちはなぜ生まれてきたのか?小説『あん』でハンセン病回復者の人生を描いた意味」の講演をしていただいた。他にも幼稚園児の斉唱、婦人会の手話コーラス、小中学生の長島愛生園での学習報告もあり、ハンセン病に関して学ぶ良い機会となった。

11/26 【笑顔の集いinつしま】 津島中学校



元熊本市食肉センター解体作業員の坂本義喜さんに「いのちと仕事～いのちをいただく～」の講演をしていただいた。私たち人間は動物の命をいただき、生かされているということを再認識するとともに、差別と闘ってきた坂本さんの生き方から人権について学ぶことができた。

12/5 【三間町人権あったかコンサート】 コスモスホール三間



うたびと/シンガーソングライターの染谷敦子さんに「あなたは、あなたでだいじょうぶ」と題し、人権講演&コンサートをしていただいた。二名小学校や生徒実行委員会による人権学習発表もあり、いろいろな世代が温かい時間を共にした。

## 編集後記



皆さんは、絵本作家・イラストレーターのヨシタケシンスケさんをご存じでしょうか。ヨシタケさんが書いた本は面白おかしく書かれており、マイナスな言葉が書かれているかと思えば、「じゃあこんな風に考えればプラスになるんじゃない?」と思える言葉が続きます。代表的な『りんごかもしれない』という本では、ある日ひとつのりんごが不思議なものに見えてきて、「もしか

したら反対側はみかんなのかも?」「宇宙から落ちてきた星なのかも?」「心があるのかも?」と、いろいろな「かもしれない」を想像していきます。この物語のように「もしかしたら○○○かもしれない」という思いでいろんな可能性を考えることができれば、苦しんでいるかもしれない人たちに少しでも寄り添うことができるかもしれないですね。もしかすると、これを読んでくれたあなたは、私の大切な人かもしれない…!?